

再校

江戸砂子

三田品川
白金目黒

五下



○天台宗佛閣

○七佛薬師

醫王山東福寺

上野末

内末元んあ

当り七仏薬師ハ傳教大師の化その中の一辨有り今山寺
二世慈覺大師佛法弘通の如く因東へく有り修んき
けんきとちりてく有り今之田道灌んくの信一
城中のありめとく有り今之の後津田有り今之
崇源院殿中建立あり東叡山のありと度小治有り今之
又貞亨元年此地より有り今之度陽寺持法人の有り今之

○妙祐山正善寺

上野末

○梅谷山東福寺 山王

○法隆山千蔵寺

曰 文下

○浄土宗

○長安寺

あり

○光明山深廣寺

○見生山崇嚴寺

寛

曰

○遍照山光孝寺

曰

○信余山教雲寺

曰

曰

○長廣山教善寺

曰

○小京山法常寺

曰

曰

- 源真山正信寺 日 日
- 松宮山孝心寺 日 日
- 光明山遍照寺 教名、日
- 西高山祇念寺 日 日
- 清涼山住心院 日 日
- 潜性山善学寺 坊名、市、日

○禅 宗

- 日東山曹溪寺 妙心、あり
- 仙境山春桃院 坊名、あり

- 妙光山来泉寺 日 日
- 法唐山田沢寺 大田、日
- 佛陀山天真寺 大徳、日、日
- 法基山大泉寺 大泉寺、日

- 昌永山光雲寺 音松、日
- 法恩寺 日
- 迦葉山盛徳寺 氷川社別高 上州沼田迦葉山末 日

為寺の本山上や木の名山にて佛法傳しの名あり世より集り日光山にて弘法大師の寺と云の詩ありと云れども光山は今稀なるなり此處葉山はやくありて聞人感

補

勤すとの外をなすより多しとて今ついでに記
他邦のるうあれし季くハの世に

- 多聞山天現寺 京大徳さま
- 毘沙門天 冥徳のるる像

補

光孝天皇御陵の塔 境内あり六又はりの石燈護り
うりり心ありて身よりよるれりわれもちひてしり

○法 華 宗

- 高林山法典寺 小俣、日
- 芳住山長耀寺 才進、日
- 清徳寺 日 日
- 松栄山妙経寺 日 日

- 日通山妙善寺 日 日
- 法久山安金寺 日 日
- 口栄山妙祝寺 日 日
- 明尺山本光寺 日 日

○女樹山長尊寺 曰 ○今井山光隆寺 スルカ 光隆寺、曰

○廣栄山法雲寺 アキ 法雲寺曰 ○妙光山来泉寺 ネ 妙光寺、さき田

○一向宗

○麻布山善福寺 西仏 寺外十石 雑色町

開山了海上人 教書上人の才よく 当寺世俗あり少後と云

本寺法池 真心の作

当寺は古く天台宗より開山了海上人すく凡四百余年の古跡ありしと云 教書上人常陸の碓氷よりゆきの付ありに到着あり傳法はアのうへへ海信一信ひ上人の才よくなりて一向宗の行者となり高宗の乃堪ありあり

藏王権現 一名麻布権現 本堂の南に海堂と云

開山了海上人近代の期よりりてらひ修し我滅して神と

りりしく當下の宗せとちりて七月十日寂り毎年

當日角かわり林するの心なり 毎年十月三日 開山身試

付訂め山号と名を山と云山名のとちり似たり

△杖島脚 右の方園山堂のちあり教書上人を甲子

才よりし時法はさしりるへくは杖は杖をすまへて杖と

逆よりてなりてありて今大木も杖を承ちりりぬ乳けき婦人

は木とりて摩して高麗ありしと樹と名あり鈴く杖を承い

し其のよりてなりてありしと樹と名あり鈴く杖を承い

△楊枝樹 これ弘法大師回京の時やと所ありし杖七

株よりて大木なる其梢は白き麻布の旗のありしと云

一流よりてありてありてありてありてありてありてあり

ありてありてありてありてありてありてありてありてあり

△麻布の況甚得と麻生の地名は麻のけりて命のあり

ありてありてありてありてありてありてありてありてあり

△鹿嶋清水 熱つて中門の石はあり活き水は流水と札あり

補

小清水の源師上人庵の明神より山水の傍の柳をいしより言進まり
 今揚柳水とのり近年孫定福の碑あり

- 法光寺 法光寺 今法光寺 福泉寺 西福寺 浄泉寺
- 浄泉寺 浄泉寺 今浄泉寺 福泉寺 西福寺 浄泉寺
- 明称寺 明称寺 東 曰 旭照山立泉寺 曰 浄土
- 西福寺 西福寺 曰 曰 黄蓮山大回寺 曰 曰
- 浄光寺 浄光寺 曰 曰 徳報寺 曰 中丁
- 西光寺 西光寺 西 谷丁 雲岳山光照寺 曰 長坂
- 廣稱寺 廣稱寺 曰 長坂

三七 三田 二本榎 高輪

○窪三田八幡宮 窪三田 田町八幡寺
 田町八幡の旧地し小祠あり綱の石塔とくく小祠の中に相殿
 のありありあり青き石は蓮花ありてあり年号ハハハハ
 時代後より至る古風なりとの年号ハ月日ハハハハ
 ○三田八幡宮 田町 別當 毗海山寺量院
 乙清水田はハハハ窪三田ハあり人皇百十一代後光明天皇正
 保年中ハ高所ハ法座と云神神ハ後遠綱ハ護の神と
 ハハハ 田町九丁其外十三丁の法也 祭礼八月十五日 隔年

風土記 荏原郡 御田郷 或其多

蕨田八幡 圭田五十八東三字田

所祭應神 天皇武内宿祢荒木田襲津彦等也

和同二年己酉八月十五日始行神祀。当社より北打守郡一書云三田の其六孫王冠基東夷征伐の時出陣の城地となり渡邊綱八当所の生れなりといひ綱生山當光寺あり云一向宗の寺産三田より里流よ云此地綱の出せの地といひ又後視又渡邊仕武藏守に任し當ふより綱の父をたじろの頃當ふて出せしけり云

著聞集 綱 嵯峨源氏武藏守仕孫箕田亮子号源次

別當源 敦為為兼子、稱渡邊氏

○綱産陽の水 産三田と云は産中やきの内にあり

○綱坂 松平大和守及中やきののりし乃云は産中

やきとの同よりいふ世人は此と其田武藏守なり、其城をり

○綱の坂 同所 有る所のやき南の坂といふ

○綱、駒繫松 同所松平隠岐守及中やきの内よりいふ

○綱塚 三田功運寺の境内にあり

○源五、松 會津侯下やきの内よりあり、申の年

の回祿は古ひりんと古書よりいふの後若本と柱らぬ、又ハ絶くり記がまゝ

結涼續江戸砂子いづく渡部綱、舊跡三田會津大守の下やきの地之来由大畧前集に著しといへども里人の傳説のよするの訛と得たり、所、鶴峯先生の箕田園の記と云く里民の虚説なりと云く彼記の畧よ云

武州荏原郡洪谷莊箕田邑、源綱、陳跡あり綱老と住と

かへ此列はむらさきよりこの、数百の星霜と云く、其塚猶存す塚上は松と栽し遺塚と標をいし、壯氣

いす、散草千歳の餘燭あるもの、明暦四戌戌の夏會津源公は地と賜別荘し、於此其塚と存す、蓋りの

補

勇と取古の土と尚（まう）と（まう）茂乎（む）と（ま）

○半月池 網塚のふりよある池なり

○懐吉松 網塚の上は栽る所の松に鶴峰先生の銘ある処

○綱生山當光寺 西末 寺中 教誓寺 窪田

○當河ハ綱、出生の地なり

補 綱、生地はつるがく前板より三田の基江基王の出生の城

地なりとす前太平記と引く説くが如く流しつるは

綱、父宛とありも流しつる又綱、塚より源五、松と記せり

いあり綱、源次といふ源五綱といふあり源満仲親長

の尊より源次といふ源満仲親長之説、嫡子（ひら）とあり源

五眼とす満仲親長の外孫とこの説も武義守より箕

田邑より伝はりし武列足立郡箕田より伝はつる

るるや三田箕田同州に當おハ穰田と稱しとすもいふ

はとんゆとくといふを混（ま）と（ま）き（ま）り（ま）成（ま）と

補

おりの綱老後三田より流し居りハたしありやあり
す人ておはし三田より列多し伝は林領よりあり
神田ありひハ御田といふ後事終り文字もさあはる

○小山神明 林崎兩室童子 別當 天台 不動院

補

窪田三田有馬家足田家の間乃南山上の社あり前板より
伝はる林明の田地とありハはつ

○春日神社 三田 別當三笠山神宮寺

和列三笠山同社 春日四所大明神、者第一殿武雷神第二

殿齋主命第三殿天津兒屋根命第四殿大神也

当社八人皇六十二代村上天皇天徳年中武義守司友原正房卿

任公のうち友氏の宗廟よりよりいふは勅請あり其後日中

うつりて人皇百四代後土御門天皇文明の頃法印慶賢中興して
本地佛十一面観音ハ弘法大師の作なりて其受災降多ク
と誘ふ所の靈也 三田の講堂 祭日九月九日

○三田墓 多田満仲於奥羽征伐の時出城の途に云
不審満仲於園東征伐の時ありやあり

○魚籃観音 三田浄土宗 三田山淨閑寺 知恩末

此本々ハ唐僧人當寺用山法譽上人回園の時夢に
有り長途乃途去ありと云り來れり
佛形面相唐女の如く右の目は魚の入りと云ら
たハ天羽衣と持立像八九寸はり貞亨二年甲午
ありそのち秘仏して常におするなり
今も乃有金舎檀と云ふの浦人漁りて釣へき一人の
女魚籃に魚を入持來り漁女の如くたけ肌を

きこのよハ衣をあは漁又とてその女はるれまとい
人このれをまとい女の日は経を一目がらまありえり
と云りてと云りて観音經をあはのくこれとて
皆人これをさそ也云はれをさそえんよとい
法華經を授くはさそものなり馬郎といふもの
一人おえりて観音の如くまといりて家よ也く
その夜はく小大難りての女死馬郎やくるなり
を焼とれその観音一人の老翁來りての女をさそんハ
云一観音なりと云をさそん云はれ又てその女を
と云りてと云りてと云りて小大難りてと云りて
時ハ老翁の女ハ觀音の化なり我まとい分身乃
ほまかりと云りて馬郎法よ入りて魚籃
を授けりてと云りて魚籃の觀音と号す

觀音冥應集 馬郎婦觀音ハ大唐ノ陝右ニ出現ニ生

（リ）魚籃觀音ハ本説ヲ見ズ疑テハ靈照女ノ
像ノ什監ヲ持セルヲ謬テ魚籃觀音ト号スルカ
馬郎婦ト魚籃ハ一ナランカ 下略

○樂師 天台城琳寺末 醫王山福昌寺 伊四子

智池大師の作 杉羽之の才かりよまよふ方佛と云
彼古ハ福念にありりの後不川仰敏山あり寒氷のころ
當所よりつる

補

○伊四子 牛所の上二本榎の通 當所の數名物也
いさゝこの地名文字も熟大せに化玉も圓及びといふまめ
つりまき名なりと不審のゆかり忍草ゆりかそくは
所おきまきなり大佛と書紅太平記高内一族大佛陸
奥ち貞直のり武藏玉へ行くと又深倉大佛の邊よ
ゆるらぬともいつ後倉子もおきまきの比まかりあつ古
老云今も痛如來寺の大佛ハむちねあり寺郎

絶してのち再木食但唱實永年中曰此をともめ
寺と建といつるあり大佛ありやは流実ありハ
おきまきの物語あり又如來寺と今も信大佛

といふ如來寺建後はおきまきといひや終身へ

○聖天宮 法興山多門寺 天台 上野末 三田

浅州令沙山の雪と同日同日作といふ

○地蔵 就多峰山中道寺 同日 同日

矣除地蔵といふ

○護諸童子 醫王山妙嚴寺 同日 同日

○三田川 臺より流れて新堀よ入る

○元札辻 田町四丁目の三辻といひは元札場

あり今ハ牛町といふ

○聖坂 三田町より臺上坂といひ聖高人の旅宿ありと

○潮又坂 いさう坂のあはへ上り坂也

○綱塚 日向功運寺の池よりありち傍のまじりより云つてとれおけきおりちとれも来歴不詳

○亀塚 土岐美佐子夜中やまきの池よりあり

補

○板も海海寺功運寺よりとも記は地味と海海寺の境内に竹津院土岐家より地面とありありし

きたりしけし亀塚は土岐家のやま記の内に成り海海寺の山号むし亀塚山といひては亀つづねに由来あり

寺記よりありしれ今こゝ略と 塚補よりあり

古老云し 町天なる所不遠多く塚中より出りしと云

○月の岬 いさうこの池 本邦紀行よ

秋より月之まはれやいづれん名に夏山の志きむれとて

補

○二本塚 いさうこの池 上行寺のつおたはよ山のこゝより

塚二つあり上より十尋よりなる板二株あり村古の二つ塚あり

よりいひつよはよ六十年おの四録より板塚とあり其塚も

切ひきき今ハ門前をとりてそのこゝも板は二本の

板正の名となり苗所ハ下り痛の内ハ下り痛ハ牛所より

補

不川すその海辺は河よりより上り痛ハ田町九丁の右と云

○念念板町 田所牛所の境横丁之俗根いもよと丁とり

○高輪 上下あり品川まで片側町と云、海に

房総の山々幽りし眺や

○牛町 江戸入江府車借の牛宿あり

○大佛 帰命山如来寺大日院 天台上新末

開山末食但唱の自作五智如来 寛永十二年起立
石像二王力士一丈六尺石地青石よ彫のまじり彫つた
り対像の石像也 両尊より但唱の作なり

補

此但唱ハ橋引多田の表方にて右馬の義師の告子と云
一書ハ但唱ノ事實と記セリとのり告子の事ハ入らず元
佛エケリる長きノ事ハ得る事も有らざる事ハ記セズ

補

○卧龍岡 如來内山の岡と天徳堂の社ありけり
石の二二ハ寛保のころ四録よりかりと確らると今ハ
内ノ様ときぬ

○稻荷社

旭曜山常照寺

○太子堂

△庚申堂

○高山稻荷

補

○釋神社

曰

曰

靈神ありといふ願とかくると歸るとき跡を足に成然の時
必本を捨ると何の本とかきとれと

ひしハ渡軍神と井より一 按よる神あり一 ありと

乃祖神を龜戸よる神の井あり又練子よる神井村

あり王子よる神井川あり皆同一きり

補

○釈地横町

乃よる馬家申中きの方の海をり

補

○有喜壽八幡社

うきとの森乃流さし

補

○有喜壽お森

町地との境は大本の松わり一 近年四録ハオハハハ
その幹カ一今よのこれりと又里流まじり一 大本の
板一とありこの小橋とまじり一 蠶桑葉にりりて
お入れと浪の流さしとまじり一 光るハハ橋榊葉

とも書くいは新海を以て山の尾より出たり舊海
 終徳なりともさういふ成りとも高なる所を古き小唄
 昔西の舟は女もあぐらげやうけきよの虫と月あて
 小は所のさやうととじいしは地苗木の長の地なりし
 も化乃人のもたらしうわらひは徳後へ上りし
 今つらの町を乃らう今よりさす中記とりや
 右に續篇に記ありきすの表古きるなりし
 水次やいしととえすありし

補

補

○洞村 二本枝と云痛みの間の谷にさるるの内に
 いし螺のゆらりしつゝ入山よれと何も可なり
 ○高輪系 芝田町よりさ痛白合具町二本枝
 大井村のさまきとさうの多くと北條氏綱上杉朝
 合然りし一町なりしま合の所より一梅よりハ
 繩の下界なり

○禅宗 佛閣

- 太平山大中寺 下野富田の宿寺 窪三田
- 開山快庵和尚 曹洞宗関東僧祿三箇寺、其一寺
- 龍溪山係昌寺 音松末 三田 慈眼寺 天註末 三田
- 松久寺 日 高峰山南基寺 高松、日
- 梅岩山正山寺 日 天昌山清久寺 東泉、日
- 虎嶽山常林寺 下総大隆寺末 角嶽山の教心哉 祿師者 日
- 龍谷山功運寺 三列竜門寺末
- 開山黙室天周和尚 二世天叟 廢存和尚 開基
- 定會 寺中 大林院 明山院 乘福院 所不棄
- △綱塚あり
- 瑞雲山竜翔寺 妙心末 三田 泉谷山大圓寺 保名、
牛之
- 水月教音安置

○平田山正覺院 日 同 ○永壽山國昌寺 分表も、日

○兩宝山菱梅院 保安寺、二丁核 ○廣法山回福寺 大中、日

○桃源山仙翁寺 吉祥、三田 ○保安寺 日

○玉鳳寺 常林寺、日 ○宗清寺 日 三田

○醫王山廣岳院 芳佳永表も末 三田 尚寺ハもと西の宮番津
山ハわさし、正保年中ハ此地よりうつる

○万松山泉岳寺 大中寺末 信持

○開山門菴宗関和尚 曹洞宗江戸三箇寺ノ其一寺

いしハ河左布の墓にあり正保年中ハ此地よりうつる

○當寺ハ淺野家の善提祈り 世より宗の大石氏とは

一ハ義士四十七人の石塔あり榎ありてみりり人々入まを南の
隅ハその頃の住僧の立ち石の碑ありて件の旨報を記

二月四日三月四日五月七月十六日等ハ義士の墓ハ各坊とゆ
りて活る人例年おひし英名とらときこり那

補 塔院 巧雲院 陽壽院 門良院

○佛日山東禪寺 妙心末 佛家江戸四寺、其一寺也

○開山靈南和尚日向飯肥の人守永氏之父母祝喜に於て生し

○當寺も河左布の墓にあり今ハ其のくらん坂の所と雲々水
と申すは地よりうつる 表門ハ海上禪林の額あり

○塔院 松壽院 宗信院 心源院

○浄土宗

○齒吹彌陀 三木山春林寺 三州 大樹寺末 三田 横さ丁

春日の作

○茨鷲山大松寺 坊上末 三田 ○宝島山大信寺 如恩、一田

○乳佛寺 日 ○令洞山隨喜寺 日

○貞林寺 日 ○長山寺 日

○林泉寺 日 ○寂照山実相寺 日 二一

○月照山称讚寺 日
○觀仏山長安寺 日

○他宝山大増寺 日
○月秀山光基院 日
三田

○元照山常光寺 日
○東迎山乃往寺 日

○浄縁山永信寺 日
○令泉山借林寺 日
本板

○永昌山就原寺 日
○風光山曼志寺 日
天徳寺

○周光山倚海寺 日
○佛峰山相福寺 日
西原寺

○開山法華上人念無和尚
○佛光山

仲より船乗寺の焼めと月ありて佳景の地と云ふ
八月廿五日

竹葉寺の古き池法も出て古きとて
開山寺

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△目當の焼め灯籠方六尺余

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

△由寺開山念無和尚位と云ふ
△由寺開山念無和尚位と云ふ

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

○日 三田

長生山妙福寺

本妙坊

妙泉坊

善妙坊

○芳荷山長應寺

栽後本成寺本

曰孤弱坊

塔以

蓮長院

了蓮院

本照院

紙本院

云福坊

○富士山上行寺

大石寺本 俳諧達人其角、墓あり

本板

○長久寺

才延、窪三田

○妙莊山紫王寺

小徳、三田

○鷹巣山一乘寺

小徳、西窪

○正法山因玄寺

曰 二本板

○栄松山長運寺

才延、三田

○光秀山蓬萊寺

曰 三田

○大長寺

才延、古坂

○常法山因徳寺

曰

○常法山因徳寺

中山、三田

○廣布山大乘寺

曰

○天台宗

○滝高山玉泉寺

○菴滝山西藏院

上野、曰

○暹王山福昌寺

智徳大師の作

曰

補

○高輪山安泰寺

○外張山幸福寺

○真言宗

○高野寺正輪番

紀列高野山宿寺

一本板

本堂弘法大師四十二歳自作の像

真言古義觸影

佛祖統記弘法大師佐伯氏田公男母阿刀氏小字貴物名

空海兼和二年三月廿一日入定高野山歳六十二

△三結松

境内より

補△系梅 大本の板より

○大聖院

古福寺、三田

○龍淵山宝生寺

曰 三田

○医王山泉福院

曰

○大元山長延寺

曰 護持所

○佛来院

曰

○位大山明王院

曰 護持所

○日光山善徳院

曰

補○智将院

古福寺、二本板

○茶師堂

溜瀧光山遍照寺

麻布新下

弘法大師用基奉号やくー 伝教大師の作

○一向宗

○常教寺 西 三田 ○西蓮寺 東 三田

○日照山宝徳寺 日 三丁 ○神足寺 日 三丁

○心源寺 日 二丁坂 ○莊嚴寺 日 三丁

○徳明寺 日 日 ○徳玄寺 日 三丁

○沓成寺 日 下丁六 ○延立寺 西 田丁

○宝徳寺 日 上丁六 ○明係寺 補 上丁六

○時宗

○冬嶺山松秀寺 相州菟沢清浄光寺末 白金

○当寺八元武州高井土より常光寺より遊行上人宿寺のよめ

宝曆一申年当所へ引その後明和二兩年松秀寺と改

中奥崩山遊行五十世快存上人

○廣守山田福寺 大申年二丁後 ○天曉院 三田

大

品川 鈴森 大井 池上 矢口

○品川 東海道中傳馬宿 日本橋より二里 北本宿

南本宿 兼行新宿 南北ニヶ村凡千石の場

里人の云南北宿の境川と品川より一境と武蔵園平川の

彈たつきは村古此奈草と條より所りりへ訓園集曰武蔵宿大

渡庄わたせより四名草と條より所りりへ訓園集曰武蔵宿大

用ゆる所として條より草の原平盛衰記より頼政不川

織の遺と着よりこりり不川より條より人只草より

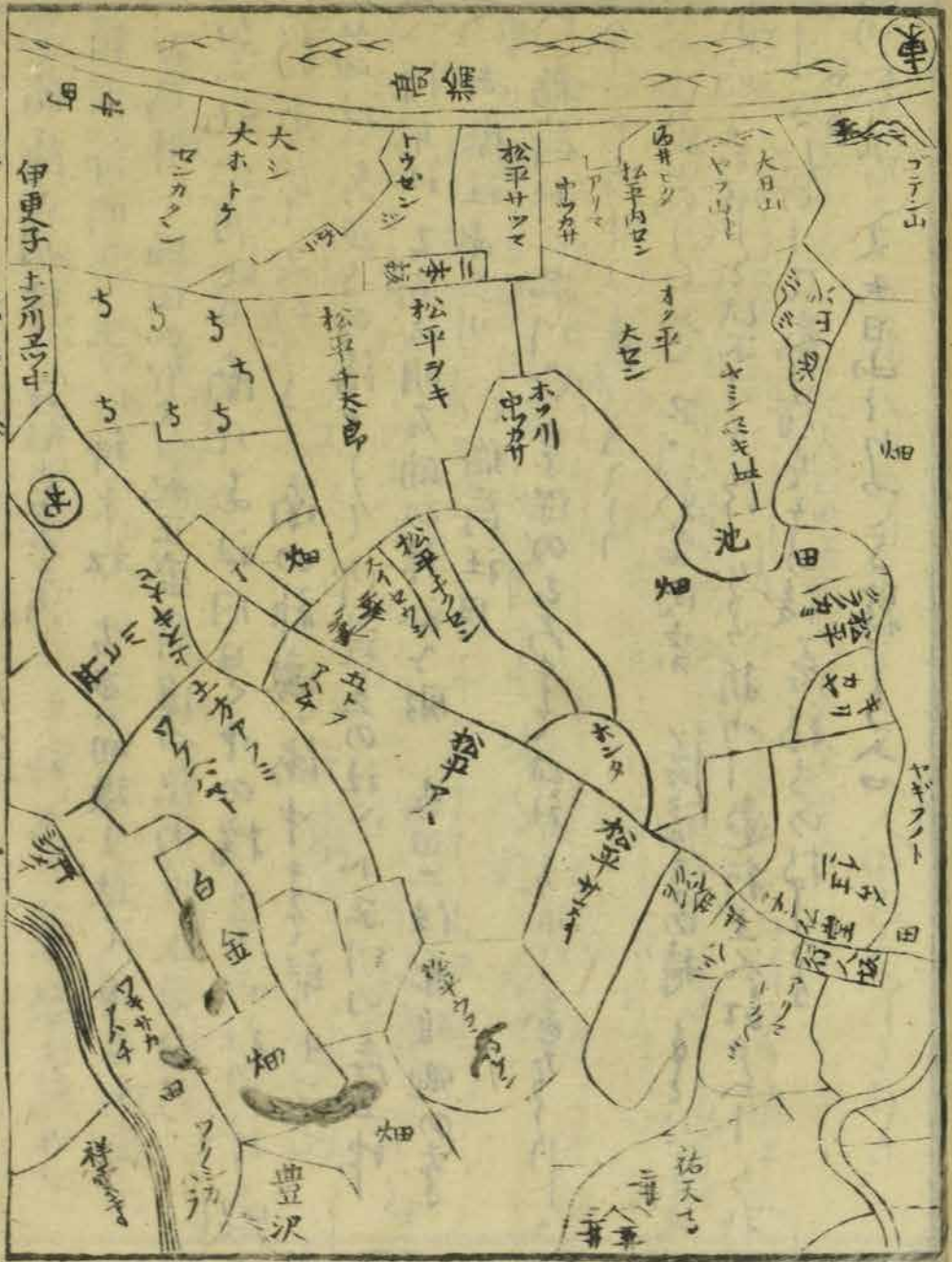
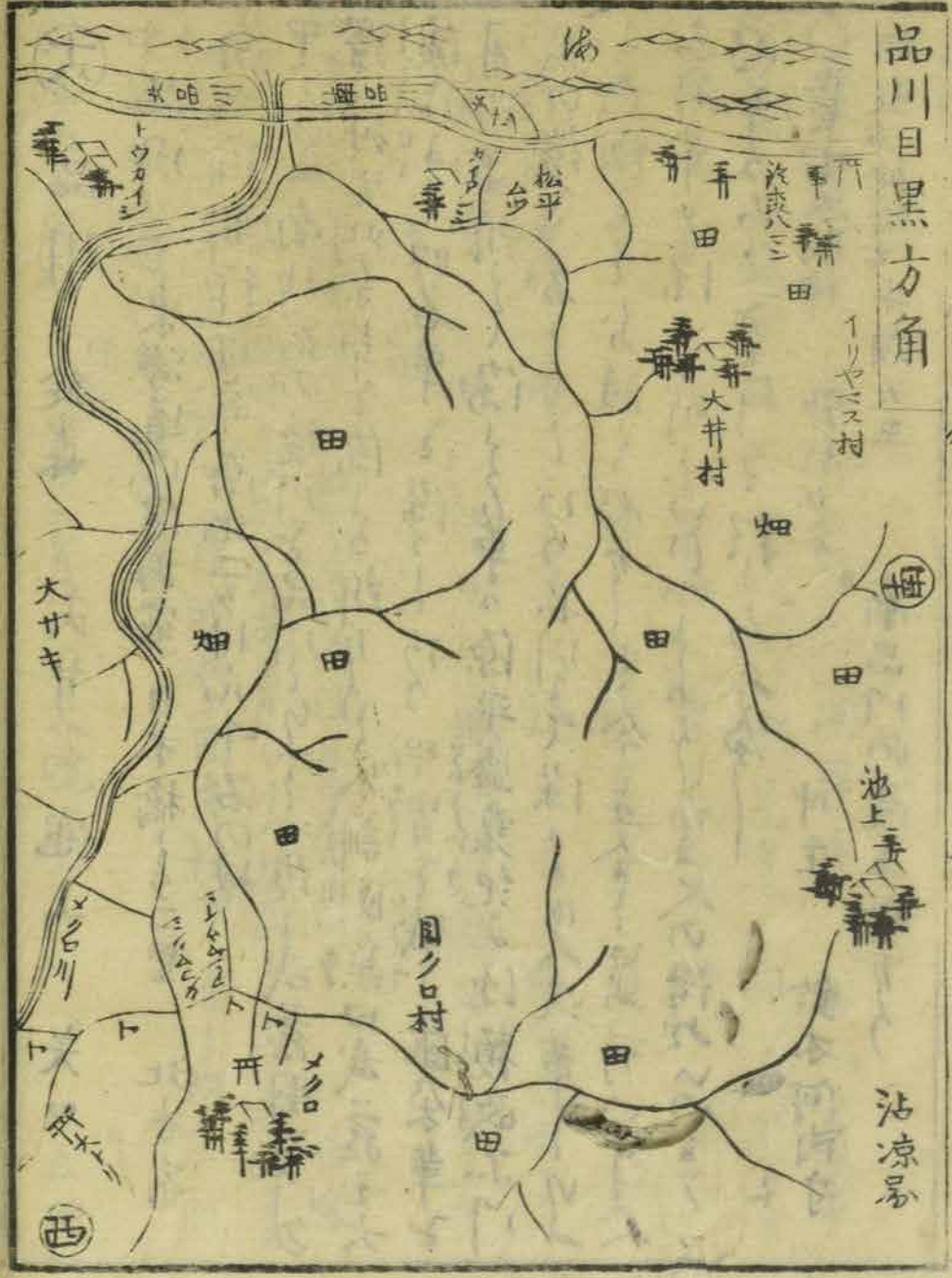
よや地ふるとあ後分りわると今立合より所りりへ

志乃草と條より所りりへありり里人の語ぬりりへ

○貴船大明神 神在 鈴本何内守

相殿左神明右牛頭天王 南品川の産土神あり

品川目黒方角



丹波工府名跡志

卷五

四上

丹波工府名跡志

卷五

四上

○稻荷大明神 井後右五石之内 神主 小泉上総守

相殿 神明 天王 神木松 古木八面録に括て雅まに
石鳥井 堀田加賀守紀正盛寄進の銘あり 八盤日陽

祭礼六月七日南北あ社同日之中の擗よて兩社の神輿
行わひて又わくく△南の神輿は海中まで曳出でて

当地はあゆるの法まじく御建立の社に小石川の産玉神

補

折本社石面は明石浦の神祇を彫 吉田二位兼雄卿の奉

○御蔭社南沢川 ○稻荷社日

○稻荷社 品川入口享保のもろまては社より小へおたりり、

今ハ町をよまよまつてきりり

補

谷山稲荷よりつぎ品川初宿町宗 とき福寺の持 もとハ里民

の地よりありとはありしけしるる折し遊行上人江戸トらん

一とたのて勸詣はとの後長福寺の持する

○谷山 又大日山よりつぎ搦りり入口

ひーハび下の出馬八ツありーー又八人のちまきあり

少よりやもむいり大日堂ありー

補

前板八山とて一非むいり谷山今も谷山村あり雉子文

の楹札も谷山村とあり神々為仙基屋山下やよきのをこまて

谷山村の内とてえり北条家上杉家と谷山あて合戦

とりのハ以上の今知りりーはるりも高橋の原に

軍とありし芝田町より以上まて時を時る原に

又大日山よりハま後六七十有年ある大日堂あり

一村老のくりぬその大日ハ石像を後ハ堂破壊く谷

山稲荷ありあり又後ハ山光嚴寺（おとあ）

りの今ハ志し

○御殿山 品川の西 とき海寺と隣

太田道真居住の地といひつゝ山実永のころ所持の御殿の

ありし御殿山よりつぎまきりて芝せ原きあり

御殿に寛文のちろ四條せしむり

補

は山は榎樹多し寛文の比吉中榎苗と植せしむり
今古木とけりて花あり文より佳り毎妻は人のまじり
んしす純宗の代にすま保のころ又可くは榎と植せり
寛永十七年九月十六日平川御殿にて毛利秀元茶の湯河好
けり御成のときり沢菴和尚一首はれと上意ありれと
夕言を柳に植す人の間よりとやけりは海ありの月
お入は房和尚せし十夜月の中堂よりとやけりは
又一着と上意ありきけり純日ありて日晴天なりけり
うる面よりとれや我君を侍えり山のうひたりきり
○遠理の枝 平夜山の内よりありて古藤子と記
るのころは枝よりけり今ハハ
○撞清の松 平夜山の山角より増上寺の待を侍り
瓜の志よりけり今ハハ

○光明石

平川にありて古藤子と記せんもの不詳

○行舎の橋

中の橋のついでと記すの村興水礼の内は橋と
けりありて今ハハ

補

○北馬場

平宿の西横町に里俗にむらとよ番場
とよのへ西宿も北宿もく人馬とけり(十五日よりつじ
は所いす)町をむらりしとよは馬とけり(平宿のまははき
とよ)とよは馬とけり(平宿のまははき)とよは馬とけり
とよは馬とけり(平宿のまははき)とよは馬とけり

○陳屋横町

平宿東に町あり陳屋ありけり

○田丸と町

又通し町 平宿北宿の境東の少路

○黒門前

平宿東に海ありけり

補

○御船雁木

平宿東の海ありけり

戸と開く舟より舟のついでありて寛永のちろ御船にて所
成の内は町より舟ついでありて沢庵和尚御船にてけり

いそまわりの山なりて河同各あり

補

清水橋町

新宿の西某町太橋への坂ありてたのふ井あり
清水橋町早登りかきすかきいそまわりの山なりて河同各あり

補

土取場

清水橋町よりうづ坂の南に河原山の後田あり
この後田中庭庭並みありてころけ所より土を掘りてこ
はたし中流地地有古場年い少登とありりぬよはをさしてハ
清水橋町少登ありて

補

利金山

清水橋町の北麓にびしし利金の大本敷林あり
一の山より西に四五十年を過ぎ去りて捨てる山のまきくまの
半より河原の少り利金の枯れころけ所の四五株あり

○居木橋

清水橋の西に居木橋あり

補

前坂震

清水橋よりうづ坂の北に前坂震あり
はたし中流地地有古場年い少登とありりぬよはをさしてハ

○震の松 水より池上つりおのたの岸あり
はたし中流地地有古場年い少登とありりぬよはをさしてハ

○鯨頭明神

さとの海をとりあり 今水あり
しりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり

そのおろしは多し夜病大よもやらの鯨のたけりて
鯨の尻を沖まきつりて鯨尻の神とりや

○朝比奈倉浦

水川松平土佐を後トヤキの浦

別は素三郎と我秀のやまきの浦あり

○朝比奈の井

右ヤキの浦ありていふと式にわたり
しりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり

○大カ合の橋

砂のふりしりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり
しりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり

補

水川松平土佐を後トヤキの浦
別は素三郎と我秀のやまきの浦あり
朝比奈の井 右ヤキの浦ありていふと式にわたり
しりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり
そのおろしは多し夜病大よもやらの鯨のたけりて
鯨の尻を沖まきつりて鯨尻の神とりや
○朝比奈倉浦 水川松平土佐を後トヤキの浦
別は素三郎と我秀のやまきの浦あり
○朝比奈の井 右ヤキの浦ありていふと式にわたり
しりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり
○大カ合の橋 砂のふりしりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり
水川松平土佐を後トヤキの浦
別は素三郎と我秀のやまきの浦あり
朝比奈の井 右ヤキの浦ありていふと式にわたり
しりしは溪へ大鯨の鯨あがり湯まともこを釣てり
そのおろしは多し夜病大よもやらの鯨のたけりて
鯨の尻を沖まきつりて鯨尻の神とりや
○朝比奈倉浦 水川松平土佐を後トヤキの浦
別は素三郎と我秀のやまきの浦あり

丹波ノシラノ...

補

川合る込とりの村と通日あり水上にけつふと通
○元品川 品川より比上道大井の北は平地あり今ハ畠と
東海寺南門の向の盛なりけ古品川の民家け所ハわが山草と
深しは所なりとあり

補

○昔街道 太の乃翁荒蕪より夫口の妙ニテ家後一様あり
○品川及館跡 元品川よりあ辺と今ハ我元の苗裔後別りは
しつうり位ありとあり又谷山の上ありとあり

補

○若石の松 比の若石磯の松樹風よりみてもあり
○品川 南ハの宿境の川とあり海は遠きより目とあり

補

しつうり位ありとあり又谷山の上ありとあり
○品川 南ハの宿境の川とあり海は遠きより目とあり
しつうり位ありとあり又谷山の上ありとあり

補

武別府中六社より毎年おま礼のお神事とひききあり
○洲崎 探師町と品川南宿の間の橋の東海後若石

補

人新り毎朝御膳の魚とたてまつるなり
○兜嶋 又 紐嶋 すぐれた町の土をあり

補

○新木明神 田所あり 鈴木河内守持

補

源義家朝臣貞任宗任と征伐のよめ東玉ト向のよめはあ
るよめより木の社と拜せんとしてその末歴とありあり漁
人の曰当社ハ日本武勇たちをね娘とあつて捕獲海中
舟と投りしよひしよき其船碎くよにけりよはよひ流る
本と社よまつり二社と勸請 善本明神とありあり
高而海濱風波の害によりて夜々漁家流失すれと歎
く社と例のさだめしよやよき我家朝臣大よまひ日
を武勇の例よりけりしよひの賊と平治せんよひし
身おせんよひしよひしよひしよひしよひしよひし
おあめく降海のついで再け所は信く兜とあめめあ
よひしよひしよひしよひしよひしよひしよひしよひし

まして一巻は例りて漁家三つふ山下にありと云ふ一の巻は
 川の漕のこゝと因討之後うぶて例の中より出きて今乃
 おくく南やと云ふすのこゝは神二社となりて一社は、
 細ともいふ神傳とすねは細島ともいふと又一流は山乃
 棟より細く海中へ出る例のたもと細く細くたもと又
 たららぬ娘の衣の細の流よりたもとたもと末より例
 きたと例の例神といひり又たつと諏訪の神といひまはり
 此一社は今南に川妙園寺の流となりて終は諏訪の神と
 男といふ一海の面海岸より東へ八所四方神伝と云ふ
 ありと云ふ以外に川に流すとの間身元の社といふもの數
 箇ありあり未歷と云ふおれ又寄来と云ふものあり
 此例は、
 遠夏とすえ條目制れをえと云ふ山内上杉木の制札の旨
 たり紙多所ありと云ふ仔細相換とも船園所たりと云ふ

○禪宗佛閣

○萬松山東海寺

大徳寺派 寺領五百石 品川

開山宗彭澤菴和尚

賜号天應大現國師 實永十五年起立

開山和尚八但馬國出るの生三浦介平義明の末葉秋庭綱典の

子なり師ハ大徳寺春屋國師之後一凍紹滿和尚の才子と

なり 正保三乙酉十二月十一日寂

春秋七十三

△澤庵の影像

同年の夏一圓相と画く自一巽と云ふ

り人あれと拜し

は、
 法衣の清教九る一天下を治むるがれごぞと云ふ

△開山廟所

大なる石とひかれのまはりて云々かきこめて

銘文と云ふ

是和尚の遺言なり

實永の頃 沢菴 玉室 江月 三信と云ふに故あり

たは、
 ろの中は江月和尚の子細ありてやと云ふも、
 法衣和尚ハ

羽列山形玉室和尚ハ奥列棚倉へ流るる其ころは戸意の

當山十境

潮音閣 山門之額大明院は筆 法室堂 一切経藏

浴鳳池 寛永の頃御子水の所 慈陰塔 用し卵塔

泰龍井 同御茶の水 豁夢樓 障楯

釣玄室 同所法回の所 要津橋 南門の橋

千歳杉 南門の内 万年石 庭あり

塔頭 瑞泉院 少林院 妙解院 玄性院 法雲院

雲竜院 真珠院 長松院 高原院 定惠院 琳光院

師聖院 清光院 泰定院 白雲庵 慈雲庵 春雨庵

補 當寺輪番として年々八月交代あり

補 當寺大門は歩行新宿よりあり是門よりいれり御成乃あり

左右並しありて門ありこれより内門あり長者所と私小僧

來ぬ所並しありて家々は限者又ハ別荘ありあり常子音

曲と禁一町あり入る表門あり額東海禪寺とあり門外

よ馬とありり大は池あり岸に大木の古松ありりり見列ある本

ありりりり行者代官ホは例は位宅せり又御後山乃下りり

島の中乃ありりり門ありあれと 御成門よりり又居本橋の上

門あり西門よりり要津橋とせりり門あり南門よりり目見柵

谷よりり南の場への通路、此よりり

當寺方丈の壁澳杉戸ありり石画多し

○福壽山 潜徳寺 建長寺末 寺伝十石 寺ありりりり

○溜瀆山 光巖寺 潜徳寺末 新像ありり

○瑞雲山 天龍寺 後列大正寺末 南の場

○瑞雲山 大龍寺 黄檗 日不

○補陀洛山海晏寺 毎年七月十五日大施餓鬼

○補陀觀音 當山紅葉の名所として秋色に美なり

○鞍頭觀音 當山紅葉の名所として秋色に美なり

後深州天皇建長三年亥冬當寺門前の海中より大なる鼓
 佛の細よりりてつりつるの板中より正觀世壽出現の
 外經念一祈一は時教於希代の事一これ外天平安全
 の際より一ととのありつる堂塔とたつてまことの觀世と母を
 一と山号の觀世の淨土に準て補陀海山と号し一四海安
 東收院の字の院と造りせしむる一と回六年のを法書と
 全成就一入佛あり回七年供養と遂に觀のつり
 一と觀漢といひ又觀既造つる海の方へ百八十回余南之
 八町の例造りつる一と觀剛造といひ一と信持はたけ院の戒
 臘の事一と入き定して法道隆和尚と開祖し一と山和尚と
 二世とて時教の定は後念よりつる世と安定の上は信仰乃面
 月牌と傳へる塔と建一と又重罪の業一とも海晏寺へ欠
 入とのハ免許するまこと山庫傍供は東南西北方十里既陀



む一と毎年秋一夜の免許は九ヶ院の勢八百八十貫本居百
 貫空院二十貫又此の定より後内南小ナ二町五畝十町あり
 町敷大空冥鷲山の境より津口より又松平本柳千本と植
 られたの例ありハ八幡三社と建又海月庵の月と為同趣圖
 抄氣堂水月堂と建たの松竹をこの海の上は枝葉ありひ
 船の女代せりつるのうらの重寶は正川浦のるあふ海日寺の
 のまがり松竹代もさへつてつたまはと仙とて又後の西の山
 一と植楓樹千本と種し蓮葉山と号し方よ蓮葉亭あり
 南よは程をみよ長さ二町余の白水氷とが人遊園とつて其
 上は権系を墓あり南よはつりて権系をまきあり又水神の表は
 里西より山王の社弘法の能る代を権院の世は法延命水より
 橋あり西條橋といふ橋下は蛇の窟といふあり建久のまあり
 里の女方と捨る蛇一蔵とて二世古山和尚引登りて天上
 とつりつるのち園あり橋のおほき久の墓所を塔敷と

あり東方は蛇腹紅葉千貫と云ふ西は屯丸と云ふ儀多あり此處
梅もさし得て紅葉とありあり北は海江と坊舎傍に房林
ありあり佛堂のあり四方八間と云ふ牡丹あり千貫牡丹と云
八幡新親の牡丹と云ふ掘門の内は杉廻松あり多貫と云ふ
法燈堂と云ふつ内は天照白山稻若三社あり以後南方に
観音堂と云ふ後南は普門閣建供奉の人衆八十宇房舎
と云ふ建し弘安五年に傳時宗形と云ふ堂造立入佛供
と云ふあり月解と云ふ二十貫文寄附

補

△平時頼の石塔並寺あり最明寺感覺了房道宗大
禪定門弘長三癸亥年十一月廿二日

補

△二階堂出羽守石塔と云ふあり其は河川の守衛あり
往古の寺門前に浄金街及の界はして杉廻つくり傳家ま
て一執権の中一人割所と云ふと云ふ大森村に屋形と建て居
たりあり此寺の且那と云ふと云ふ

補

△鐘 予氏之八代よりて搜才出羽守寄附宝徳二年に
名字とけりは名道琳と記録に古溪和志坊に

補

△名寺 則根は天叟慶存和尚松平因幡守康元の子し
御入国の折に三ヶより石建にせられた後慶長元年丙辰
名寺と拜仰しその末修治定と改められたり曹洞宗に
仰付るなり是名高寺の記録のなりと云ふと云ふ

補

○龍吟山海雲寺 海晏末 日

○浄土宗

既成山願行寺 坊上末 寺中 願性院 正文院 南吾川

高寺に約め弘法と云ふ一寺して山名と云ふと云ふ

毎年十月の日に十夜多仏供り多宿禰を奉せり

○隣海山法禪寺 岩付浄土末 坊上末 寺中 願性院

補

お板法蓮寺とありと云ふ 寺中 願性院

○法花宗

補 ○經王山本光寺 京妙満寺 仏綱頭三寺之其寺 南只川

二位僧部日什上人建立そののの言宗有り日什上人の法とすは花宗也

日什上人は天台宗より叡山慈遍傍正の才子玄妙法師と号 奥羽會は羽黒山東光寺に行す後より法花宗の功

伏し永徳寺中 卷開と注 勅許と系して一仏と并立す正二位傍邪は京妙満寺の開山より其の勅許也

△日什上人廟 古松の下にあり 以松の木の五本有り今之を乃ちる受安のころなり所なる也の時 御躰と掛

させり松の寺と 上意有り一り世に松の寺といひたりとて計つ仏の中開山直進立日奉る有のその一寺也

△鬼子田神 中つの内あり 号はあり伝有り 寺あり 受安院 法花宗院

補 ○鳳凰山妙國寺 同三寺之其寺 寺領す 南只川

開山天目上人 天正十八年 御入国のとき高寺に 御止宿有りせられ 御未印始り寺に有りて 唐安のころなり

補 ○五重塔 二王門 二王ハ運慶の作りて 運慶の作りて

補 ○諏訪明神 境内あり高寺の法也 以社あり 御塔あり

いづれ 御のたのけなり 例のの林といひたり 十八所ハそのしり 津飯なり

寺中 義定院 中正院 安立院

○惠日山妙蓮寺 妙由末あり 法光山本榮寺 本光寺 曰

補 ○自覚山海徳寺 系本あり 蓮長寺 曰

○一向宗

○心海寺 西 南ふゆ 正徳寺 西 小ふゆ

○天台宗

○熊野山常行三昧寺 上地也 南ふゆ

補 開山慈覚大師 不川よりしてその古跡あり

○本覚寺 山まふゆ

○時宗

○恭敬山長徳寺 寺伝十石 相州若狭は津波さる

○深慶山海藏寺 日 南ふゆ 昌福寺 日 外宮

三ヶ寺とも一處二代上人他は此に佛を教上人の并基之

真言宗

○水月観音 海照山品川寺 普門院 京三宮院末 南ふゆ

開山権大僧都弘尊法印承應元年草創

本寺は弘法大師の持仏阿闍梨檀金の聖觀音御中出立の像之
大師圓圖のより武州北佐原の押佐品川氏何某の御せられ
その家よりして品川左京亮よりしてついで應永年中
福人慈持氏より上杉禅秀よりしての付品川の一族討死を
この付本寺を奉養堂よりしてより太田左金吾源持資
不川を能才持資よりして像を信一一字と建立すその後
長祿元年持資入道乃薩戸の職よりして文明の比種金よりして
上校定よりしてよりしてあ上校不和して関東大よりして
よりして法寺社も破滅にあり永祿十二年小田原の北条
甲別武田よりしてより武田武義の北方よりしてより
不川を遺補し不川大教寺の付本寺の堂をよりして御神
社佛閣のよりしてやきけよりして任僧法師およりして害せり
その付本寺武田家よりしてよりその奥大變ねれよりして我
武列不川大教寺れよりしてすみやくよりしての地よりして

笠沼の神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 又笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

補

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

補

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

補

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の
 境内よりつとありし磐井の神社は社名帳もものつたりけ
 神社の多岐ありとありし終末を笠沼と一社とあり
 笠沼の社の統よりあり又その祠のありと當社の

かき経渡地蔵 長九十八分 弘法大師の作

義経の比相州の住禪舎持良景道一子と記すと歌して地蔵

よりの湯養と感し神仙消積心元丹といふ霊業又符とさぶ

りるこれと眼まよほして男子とほりり禪舎持良景道

是とそものち子孫禪系氏くかると信しかくくよ別荘とすよ

け何と禪系常きととふいひういせり一族の石塔も由ちいあり

△権名松 へ延命権 禪系枝とて今よ當寺にあり

正元丹といひは護符信心のともくよに記すし

△八景坂 信法てやぐん坂といふ大井とわくわおとのあり

△八幡太郎 信法とてやぐん坂といふ大井とわくわおとのあり

△下より 海上眼下にありて八景ありといふ

○荒蘭崎夜雨 大井落雁 鈴杵晴嵐 羽根田保帆

△海上秋月 六郷善雲 震揚夕照 東海寺晚鐘

○荒蘭宿村 今表井霜と云 大井村より池上乃の傍と云

○法光山善慶寺 法花宗 赤川本光ち末 大井宿

開山中老日法上人 應西辛卯三月廿八日寂 開基旦那間文氏

○熊野西社 水原山よりあり △弁才天社 同山上池中央の傍よりあり

俗は社と小町の社といふそのゆへとあり

補 補 補 補

補

補

○長栄山本門寺 一本寺 寺領百石 千束郷池上は戸より三里
開山日蓮聖人 開基日朗上人 紫衣
人皇九十代後宇多天皇私安年中起立

日蓮上人入寂葬送の地之齒骨ハ身返山ノ納

日朗起立の大寺三ヶ所 長興山妙本寺 長谷山本土寺

長栄山本門寺 これハ あれと云長三本より
本堂祖師の彩像ハ日法上人の作祖師五世の肘前とて刻し
△誼法華經 祖師直筆よ自注と云書入あり

△才子擅那への遠物自筆の帳

△身近山才子中輪番持自筆の帳

△自筆の消息あきし 上人所持の念珠

△肉付の函 上人在世の時ぬけたる函なりと

△紫色の石 灵鷲山より後 貞宗の太刀

おのく 當山の什物なり

祖師堂 長栄山 本門寺 此三の額ハ本所先悦宗子

當山の池ハ関東番通の棟梁池上右兵衛大夫宗仲が居候の池

なりと云祖上人ハ房列小湊の産なりて誕生ちハ出生の

所なり房列より鎌倉より至りて本門より長船ありては地の

宗仲が家に入ありて甚き敬すその時祖師この地の京

と云ふハ我代化すへき此なりと云のち方近より下

山より當山よりつりり宗仲も才子と云り家と改て

寺と改り今の太坊と改り當山より古改の四ヶ院あり

太坊ハ祖師入寂の地宗仲が住居の地也日澄上人の寺と云

南坊 日昭上人の寺 照栄院 日朗上人の寺

受戒坊ハ日像上人の寺云れハ日朗の才子

寺中 照栄院 受戒坊 久成院 妙泉院 中道院 本学院

玉蕊院 本立院 昌受院 妙法院 善徳院 大善坊

正教坊 妙遠坊 本成坊 岩本坊 善光坊 妙善坊

遠糸坊 妙通坊 田原寺 大林寺 善徳寺 林昌寺

本随寺 妙真寺 栄林寺 妙浄寺 本住寺 长照寺

妙光寺 正教寺 本光寺 本受寺 长養寺 浄心寺

△祖師廟 △所沢水 境内あり △祖師堂 秋迦堂

○五重塔 山門も修り 学寮教多南谷檀林と云

毎年三月十九日より廿八日まで 千部執行多詣群をり

十月と云式又同 千東池 池上あり 長三町と云るなり

○日蓮腰掛松 千本代の江はわり

○新田大明神 荏荏邪る也依 矢口 別苗 志言 真福寺

新田大を勝佑義奥の基社や万の後二船あり本より
 信は正しく古墳をよ 數百の早をおとすうりさる信あり
 竹本枝をよとらるも 何とよ必たりわりのよ

△新田徳壽丸義貞新田の男之吉跡の先帝との武勇を考り
 ためひ名と揚りて新田丸を勝佑義貞と号し平七年武勇
 幣強々々の軍よ功あり基氏かましくよわくも越後より
 ひるのよとやりのときの上まははげすかほくくの執
 槍畠山道折を川とききて大よおそれ行は右意も江戸
 遠江もあぐんりて強くさくむろす我奥はくく
 けしあはしくいりり行は女と我奥はくく
 了行沢と信とすのらあ人のよ相列よ内意のよれあり
 今強々とおそぶゆりし利あるへりといふ我奥はく

我一からぬひそく相列よおまじくは矢口のわりよて
 庵と築くまづは江戸行はあきありさく大よとらる
 る我奥はくく自新はく水牛よ入近元二年十月十日
 ろのしらは戸井因書いり其地よおまじくは
 矢口のわりよの迅雷夜風舟とくく人さすは
 戸遠江も大よおどろきくろくすれは我奥甲冑
 とさし白るよ繁く中よありく遠江も射る急
 船は七日よりさくも水よながる新より
 河へおまおある山を我奥はく入河
 川の基氏の法入く思くさかぬ及折大よおどろく
 入間の民家數百は雷火は檣竹は江戸同
 ほどぬ死矢口のけりり怪すもおけり人民
 掃らかるゆは社と建新田大明神は元二年
 おそれ、まはくくたえは

補

義興湖左の事跡石牌や一ろのくろくろの守り守り

補

古流りれ... 仰... 今ハ門前...

補

又夫と... 今ハ門前...

補

み... 今ハ門前...

補

十寄大明神... 今ハ門前...

補

共... 今ハ門前...

補

い... 今ハ門前...

丸

白銀

目黒

碑文谷

氷川社

別當徳來寺

表言

表福寺末

白金の産主神かり

祭礼九月十七日

鷲森神明宮

引當法音寺兼帯

天台

山王城跡末

比多と... 祭礼五月廿八日

宮下稲荷

豊澤

上中下ニケ村あり町人百姓入組の所

土筆ヶ原

之ノ又の多あり

今里

白根村のゆし白根村ハ凡八百云々の事

六軒茶屋

ひりハ此下茶屋六軒あり今ハ所を数

あり... 表言

観音堂

表言 光雲寺

曰所

○樹木谷 けい 地獄もこれも斬罪場と云ふも
地獄谷の風流りれ名をけいといふのけい云ふなり

補

○高野寺 高野在番宿寺 白令堂町ニメ

本堂弘法大師 △法舟丹生高野両明神

△摩利支天 △金毘羅大将 △地主稻荷 入敷いかりり

いかりり法堂

○誕生八幡宮 永峰山高福院 言ふ地本長き

宗日八月十五日 誕生のふいふ考す

○三宝塚 土器塚 三つに三つをなすなりと云れり

○直指金浦 直指院よりあり実之年中木食直指坊千辨

佛と違えしと直指院より直指の弟子如西坊實之六本十月

皆此比より入定を我亦く夜痛と遊へしと鍾植のがらひ

淑と云れりして入記よ遠守夜而と遊と云はち坊寺堂なり

いかりり

恒足軒友撰哉詩より人右の入定の付る

西村海次ちあつしつりとのたりと

○雄子宮 大崎 白雄山宝塔寺 天台 山王末江戸よりニリ

慶長の御持の時は社(雄子)に入て、かろし社の名を尋させり

山神の社名なりと言上と雄子入るは雄子の名を唱へり

上意りりといひ侍りまつる社内なるなりと

補

△元三大師 日寺よりあり 教山と同年の画像なり

毎月三日開帳し又此いちちしは奉安儀入るは像と云ふ

有て退くをり人といふありしは是よりしむひなり

ゆりかろしりやすし一板同しと約めりておまけ鏡り

△はま谷山村あり

○油ヶ崎 焼町の下大橋の東乃方をり

○桐ヶ谷 江戸よりニリ 三時あり

補

○蛇産ハムノ 上下の村に五百石あり 江戸より二千里

○禪宗 佛閣 白銀 目黒

○紫雲山瑞聖寺 黄蘗派 白金

開山本菴和尚 寛文年中造立

○大光山重秀寺 妙心末 白令 ○法正山妙玄院 曰

○四應山長徳寺 曰 目黒 ○日出山威徳寺 既成ち、目黒

○長昌山龍徳寺 生哉の宿寺 寺領百石 白令

開山極和尚 曹洞宗関東僧祿三寺之其一寺

○普明山西照寺 サカミ 徳羽ち、白令

補 ○鳳林山傳燈院 高幢寺 山列宇治田原禪定寺末 下田長

開創高峰和尚 享保年中起立

△鎮護神社 古寺にありけり 金毘羅権現とていひかゝりて

後、修護社と号す 至徳にありて 毎月十日祭儀あり 是の

△難波の梅塚酒より

○法 花宗

○知光山立行寺 系 下流ち末 △野乃の侍者大師の作 白令

ち中 通慈成 立立坊

○寂上山受林寺 小湊 曰 ○令峰山本妙寺 才近末 曰

○妙蓮山本立寺 比上、大サキ ○波後山妙回寺 曰 曰

○常徳山玄照寺 才近 白令

○天台宗 目黒 白銀

○目黒不動 泰叡山瀧泉寺 天台 上野末 目黒

開山慈覚大師 本寺 慈覚の作

或人の云ふ山は往昔日本武尊と登りて可なり 神舞とて

少く土民の祈り 荒人神といひたり 志るるは 大師

か玉下跡より 叡山へのありか 祈りては 可なり 大師

農民禰ひく云當山荒人神元日本武尊の由りて
 神体と彫刻一神殿へうつりてまじりてなり大
 不動の像を作り内陳へおろし置るなり是日本武尊
 の土のすそを祀りてありて少時凶徒等たどりては祀り
 座多し一將してありていひて人々を引さす將に出入り
 凶徒等ハ野火とて形ちりてと焼くともなりて
 天のしるす雲のつらきとありていひさせたまはれ
 網と切てしるすもえある端にむくひるると難く
 火焰うつりて凶徒のさへ死てありて七人なりは神と
 天のやけをぬきとありて火と草雜の紐とありて
 させば入ると其時のさへけりてたゞ大の切縁と持
 右に紐と持たまひ火焰の中よりたまはれなり
 る形りて日本武尊の神体とありて高野山不動なり
 高野山ありて以加之又大と祀者をすもけ中縁なりと云

慈覺大師ハ下野小都賀那の人父ハ壬生氏ノ唐智乃
 才子諱ト圓仁ト云大同二年十五歳なり高野山大師
 夢のまじりて所坊唐智ト云云高野山一傳教の才子
 たりたり
 貞觀六年正月十六日入寂于時七十一歳
 元和三年春より乃の在家より火起て堂殿のころに
 焼亡す日方像烟の中より死て燃水の上よりまじりて
 りのなりて唐智のけり

高野山祈願のもの裸にて百度詣とありて始新場あり
 獨鈷の窟 大師とてこの地とありてちりて高野山湧出
 よろしく号びりて三流あり今ハ一流と源山の上の清水冷
 潔よりて大旱も潤るなり一江野の多能くとも高野のと
 もくは可もくはつと云々

補

明和の今ハ又二流とありたり一流ハあり

再探二所各圖示

△鷹居松 又腰掛松 又白松も石壇のそばにあり

突水の頃此地よおろく御尊を祀りしに御尊を祀りて

やうに入別當実業より仰るに云ありしに御尊を祀りて

松の梢よとまり御尊を祀りてかけさせしに御尊を祀りて

つら御感甚かりしに御尊を祀りて白松といひしに御尊を

えの松といひしに御尊を祀りて本堂御再興ありしに御尊を

智田明の威力廣大に御尊を祀りて迦樓羅焰の徳深かり

當所の産 餅花 伊福の餅 粟餅 川只左衛門

補 三九九月廿八日昼夜多宿影一又十二月十二日煤拂まで用

帳つらぬ(十二日おろく系宿群とあり)

東に解茶茶の佛圖に浅草親多 雜司谷鬼子母津當

小不詳多ありしに百度系宿群とありしに御尊を祀りて

○胡茶師 不老山茶師寺成就院 伊泉末 目玉

本寺の慈愛大師の作

此本寺の祈願ありしもの梢と樹物ありしに御尊を祀りて

梢とありしに御尊を祀りて

前枝伊福の胡茶師の中縁とありしに御尊を祀りて

○卧龍山能仁寺安養院 日

本寺の御懸像空界上人作 △観月樓 額回廊あり

里民はもとて縁起ありしに御尊を祀りて

○大鳥大明神 別當松輝山生蓮寺大聖院 日

目玉の法ありしに御尊を祀りて

△又かつらの法ありしに御尊を祀りて

尚社に日本武尊とありしに御尊を祀りて九千年余の古祠ありしに

和泉小太夫社の山碓命とありしに御尊を祀りて伊福泉所とあり

○松樹山茂林寺明王院 上地末 行人扱

開山宗運法師 常念佛堂

弁才天 弘法大師の心 江列竹生竹の告よりて彫刻の像
子安觀音 旧作 長列檀浦より出現
子安石 觀音の告より信列佐久野三塚村より所より山
形は下感有り

△夕日山 本堂のより所の山

当山は系のより所は此處より品川海曇寺と當山と

○行人坂 坂中より並ひく山系をあり

粟永のより湯屋山の行者は所より大智如来と違ふ

○大日堂 松林山大圓寺 天台 行人坂 行人坂
右の行人のより多分の所は一仏の行人よりあり

○石橋 行人坂のよりあり享保の末木食菓をより
かけり橋柱をより西岸より石と桑出上と園くより

よりより交りより弁才天の彫刻

浄土宗 白金 目黒

○増上寺下屋敷 寺中六箇寺 三昧もあり 今里村

○金花山清岸寺 坊上末 右下ヤキ 道徳山台長寺 日 下ヤキ

○選擇山本教寺 日 佛性山戒法寺 日 日

○極岩山最上寺 日 知足山正福寺 日 日

○靈雲山蟠龍寺 日 目黒 洞併海陀

△岩屋弁才天 弘法大師の作 當寺より山は洞中より
入りあり數十歩炬と目よりくり弁才天より本宮ハ門乃

向あり 宝蓮山光取寺 日 白令

○鉢名山西光寺 知恩未白令 降花山正徳寺 日 日

○高峰山長泉律院 中目黒

開山増上寺前大傍正成譽大玄大和尚

寶曆十二年七月起立 浄土律宗結界地

法深の署水巻とめり

補

補

補

○明頭山祐天寺善久院 中目黒の内 下目黒不動堂行程八町
開山大僧正祐天和尙 享保年中二世祐海和尚起立

祐天和尙像 三輪利濫作 △茶毘の中いのり 開山の古形あり

開山廟所 左の方林中 廟所へ日毎に掃とさるる老女あり是ハ

傍心在世の時日毎に掃とさるる姫の寂後行在りありは姫死期を

わたり兼日幼すと麻布流土辺のものに墓ありといふも是なり

當寺灵宝教多ありあり畧

補補

例年七月十五日より廿五日まで千部修行ありて多宿多し

○碑文谷 天台 妙光山法華寺 寺於十九石 上野末

開山日源上人 二王女向作 釈迦堂 飛騨の寺建りありて

忠玄法師大とけは碑の文とがまじり埋りありはよりありたり

けのひる草の乃場とえ縁の頃天台宗ありあり

五之巻軸

